

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101678		
法人名	有限会社すかい		
事業所名	すかいグループホーム		
所在地 (電話番号)	〒030-0966 青森県青森市花園2丁目44番地7号 (電話) 017-765-2666		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年4月3日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋構造造り		
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢 平均	83 歳	最低	69 歳
		最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北川ひ尿器科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅地に位置し、商店や病院、公共施設が近在し、生活環境の利便性も高く、住民の暮らしを身近に感じられる環境にある。新築移転で空いた病院の内部を改装し、居室スペースも広く、ゆったりとくつろげる空間になっている。経営者は薬剤師の資格を有し、医療と生活の連続性に重きを置き、透析治療を要する方の入居を率先して受け入れ、地域の評価も高い。町内会に加入し、地域行事や老人会の昼食会に参加する等、繋がりも密接であり、自然な形で地域の一住民として生活されている。又、「共生」をベ - スにユニット毎の具体的な理念を掲げ、個々の生活リズムを大事に、楽しみ事の予定を立て、明日への生の意欲を引き出している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議開催にあたり、案内の際、議事内容を伝え疑問点や具体的対策等、関連事項についてある程度方向性を持って参加していただき、事業所と参加メンバーによる双方の意見の取り交わしを確保している。回を重ねる毎に、率直な意見が出され、地域の理解と支援体制も確保されつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の意見を取り入れ、管理者と各ユニットリーダーが自己評価を行い、改善に繋げている。更なるサービスの質の向上の為、職員の意識統一、ケアの振り返り、気付きを促す効果を期待し、全職員で自己評価に取り組むことに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族・行政・民生委員等参加者は定着し、隔月定期に開催されている。事業所生活の様子や、外部評価の報告と改善対策へ協力依頼される事もあり、快諾を得て解決した経緯もある。又、地域行事参加の機会も多く、会議メンバーからの情報入手や、双方の役割を確認したりと活発に意見交換が行われている。行政との関係も良好で、こまめに連絡を取り助言や情報提供を受けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	投書箱を設置し自由に意見が出せるように配慮している。定期的にホ - ム便りを発行し生活の様子や個別の状況を伝え、随時の連絡にはFAXを活用している。又、入居契約時に書面をもって、苦情受け付けや、意見・不安への対応を細かく説明し納得を得ており、特に意見については専用ノ - トを用いて周知徹底を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域行事へ参加したり、近隣の小学校の運動会見学に出掛けたりと積極的に地域参加している。事業所の自発的な試みで、町内のクリ - ン作戦を行い、地域の一員として貢献するよう努力している。職員は老人会の昼食会に参加し、出前の介護講座を開催したり、高齢者とのふれあいを通し、地域の持つ課題に積極的に関わりを持ち、必要機関に繋げている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念を再考し、地域の中で「共生」して行く事を目標に、各ユニット毎に職員全体で話し合い事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有スペースに掲示している。ケアを展開して行く中で迷った時等、申し送りやカンファレンス時に理念を振り返る機会を設け、実践場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し地域で開催される盆踊りや祭り等の地域行事に参加している。近隣の小学校の運動会見学や、自発的に町内のクリーン作戦を実施し地域に貢献している。又、職員は老人会の昼食会に参加し、独り暮らし高齢者と触れ合う機会を設け、悩み事や認知症予防についての話をする等の交流の場を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果は、運営推進会議やカンファレンス等で報告し、優先順位を決め改善に取り組んでいる。又、職員の意見を吸い上げ、管理者と各ユニットリーダーが自己評価を実施し課題を浮き彫りにし改善に繋がっている。</p>		<p>職員全員で自己評価をする事により、職員の意識あわせや気付き、ケアの振り返りができる。それがサービスの質の確保につながる為、職員全員で自己評価に取り組むことに期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議開催にあたり、参加者に事前に議題内容を送付し積極的に参加を呼びかけている。会議では外部評価の結果や行事、入居者の暮らしぶりを報告し意見交換を行い、外部評価の改善事項にも率直な意見を頂いたり、地域の資源活用に協力を得ている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の他に、行事の案内やホーム便りを定期的に送付している。こまめに連絡を取り、助言や必要な情報提供を受けている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度を活用されている入居者がいる。管理者や担当者だけではなく、制度について職員研修を通して周知を図っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止のマニュアルがあり事業所内研修で周知を図っている。学習の機会には事業所独自の自己分析シートを活用しながら、職員で話し合い虐待防止に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書や重度化への対応、又、看取り等について、入居者や家族から不安や疑問を確認しながら、事業所が持つ機能と対応可能な部分について充分説明を行い、理解を得られている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りを活用し定期的に入居者の状況を報告している。又、健康状態や買い物等で立替えが発生した時は随時、電話やファックスで報告し家族の不安解消に努めている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱を設置しているが過去に投稿された事例はない。運営推進会議や家族の面会時に口頭での申し出や些細な意見等でも職員間でノートを活用しながら周知を図り、随時検討し家族に回答している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、入居者へ十分なサービスが提供出来るように最小限に留める配慮がされている。離職に関しては入居者の不安や動揺を避ける為、告知してないが、新たな職員が配置された際は、ケア提供へスムーズに移行出来るように紹介している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し定期的に勉強会や研修会を行い、その中でレポートを課したりテストを実施し、理解の確認を行い、職員のスキルアップに努めている。外部研修に参加後は復命書の作成のほか、会議等を活用し研修内容の報告をする等の取り組みが行われている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者で結成した認知症を考える会に加盟し、年2、3回の研修会や共同での講演会の実施、情報交流会を通して事業所外の活動や意見等をケアに活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所見学に来て頂いたり、事前訪問し説明や情報提供を図り、入居される方や家族が安心して頂けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者、職員がお互いに共生しながら穏やかな生活が出来るように趣味や楽しみ事、生きがいの場面づくりの声掛けを行い、家族や関係者に相談し意見を聞きながら日常生活に活用できる事を取り入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の重度化により、直接的な訴えは少ないが表情や行動面から把握したり、何をしたいか、どのように暮らしたいか等を理解するアプローチとして、一緒に楽しみ事の予定を入れたカレンダー作りを行い、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族等から意向や希望を確認するとともに、センター方式を用いて日常的な関わりの中で職員の気付きや意見、アイデアも参考に介護計画の作成が行われている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に一回介護計画の見直しを行っている。入居者の状態変化時は、随時カンファレンスを行い介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>短期入居利用者の受け入れが可能である。通院や外出等の車椅子利用者の為の送迎が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の意向を尊重し、希望する病院を利用出来るように通院も含め支援されている。受診の結果も随時電話やファックスで報告している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し医療的バックアップ体制がある。入居時や状態変化があった場合など契約の段階から指針について説明し、段階的に入居者、家族、職員と話し合い可能な限り継続的なサービスができるよう配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や個人情報に関しては、安易に他者の目に触れないように保管場所を配慮している。声掛けや対応の在り方についても、事業所内研修で勉強し振り返る機会を設けプライバシーに配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの気持ちを尊重し業務優先ではなく、食べたい時間、入浴したい時間等、入居者の希望やその日の体調に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作成時には入居者の希望をとり、季節に応じた食材を取り入れている。又、入居者と一緒に食事の準備や片付け、味見を行っており、食事時間についても大まかな設定はあるものの、基本的には個人の希望を優先し食事を提供している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は設定しているが、透析治療の方が半数近い事から、時間や個々の体調、希望に合わせて支援している。安全安心に入浴を楽しんでもらう為に入浴剤を工夫したり、職員2名体制で介護力を確保し支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみ等の役割は、入居者の負担や不安にならないように、意図して定着を避けている。入居者が前向きに生活していけるように、一人ひとりの楽しみごとを尊重し、楽しみごとを記入したカレンダーと一緒に作成し、実施出来るよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>新型インフルエンザ等にて外出する機会は少なくなったが、天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけている。又、ねぶた見学や近隣の店に買い物に出かける等、入居者の希望に沿うように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないという方針があり、マニュアルが作成されている。会議等でマニュアルの周知を図り、拘束しないケアを実践している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>一階の玄関は車通りが多く危険防止の為、家族に了解を得て施錠している。各階のエレベーターの入り口や居室は施錠されておらず、出入りに制限は無い。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、避難訓練を実践し、運営推進会議にて町内会や近隣の方々に災害時の協力体制を働きかけている。又、水消火器を使用して消火訓練を実施している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量、水分量は常にチェックされている。透析治療者や糖尿病の方について、医師の指示に従い検査結果を観ながら献立から栄養摂取まで工夫している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>各感染症のマニュアルを作成し、それに基づいて対応が行われている。又、勉強会を実施し、職員に周知を図り予防や対策に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2階は椅子やテーブルが配置され、3階は小上がりのスペースがあり、両階共に掲示物や装飾が見やすく安心安全に過ごせるように配慮され、落ち着いた雰囲気がある。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具や生活レベルに応じて家電が持ち込まれており、家族の写真や装飾物を壁に飾るなどして、居心地のよい居室作りがされている。</p>		

 は、重点項目。